KUSHIRO TOWN

第二回市民が選ぶ！カーボンゼローカル大賞

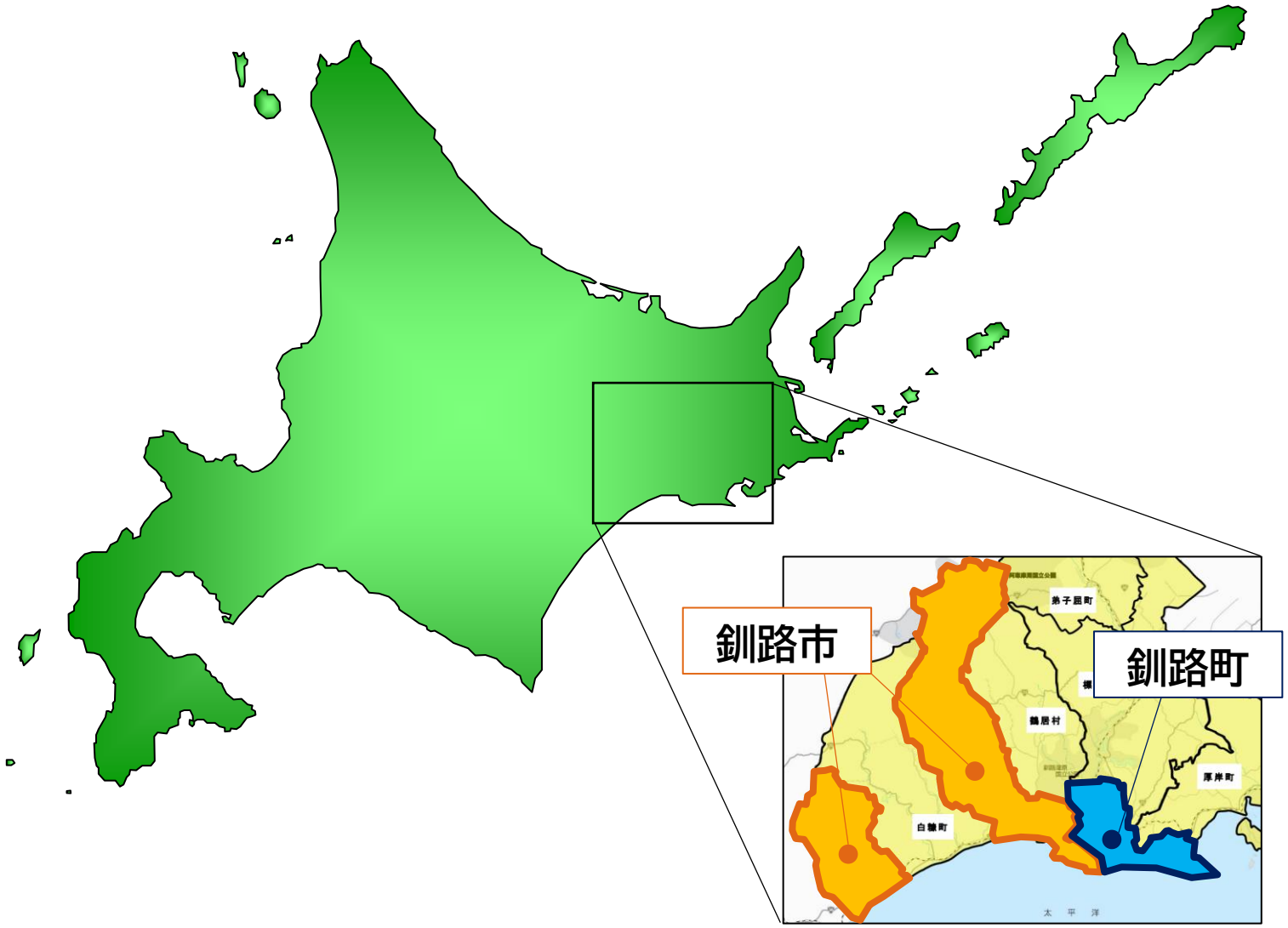
釧路町ゼロカーボンシティ
未来デザイン会議による住民対話の実践

2026.10.28(水)

釧路町環境生活課環境政策係　係長　伊 東 佳 基

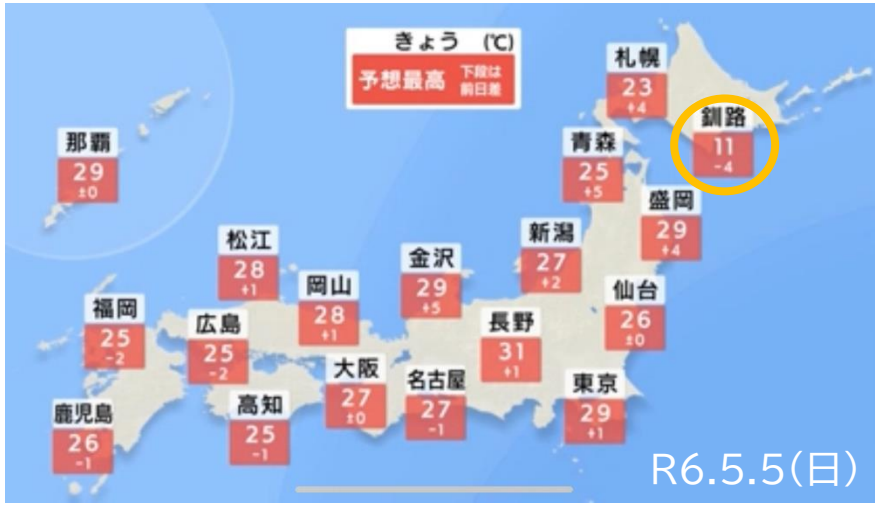
ZERO CARBON HOKKAIDO KUSHIRO Town

釧路町の概要



人　口	17,802人（R8.7.31）
世 帯 数	9,550 世帯（R8.7.31）
面　積	254.15平方キロメートル
最高気温	31.5℃（H22.6.26）
最低気温	-17.8℃（H10.1.8）

※釧路地方気象台データ





釧路湿原国立公園（細岡展望台）

釧路湿原国立公園は、釧路川とその支流を抱く日本最大の釧路湿原及び湿原を取り囲む丘陵地からなり、国の特別天然記念物のタンチョウをはじめ多くの動植物の貴重な生息地となっています。

特に細岡展望台は、湿原ビューポイントとしてNO.1の人気を誇ります。どこまでも広がる釧路湿原の中を大きく蛇行する釧路川が特徴です。

tripadvisor 「旅好きが選ぶ！日本人に人気の展望台＆公園ランキング2020」 第1位

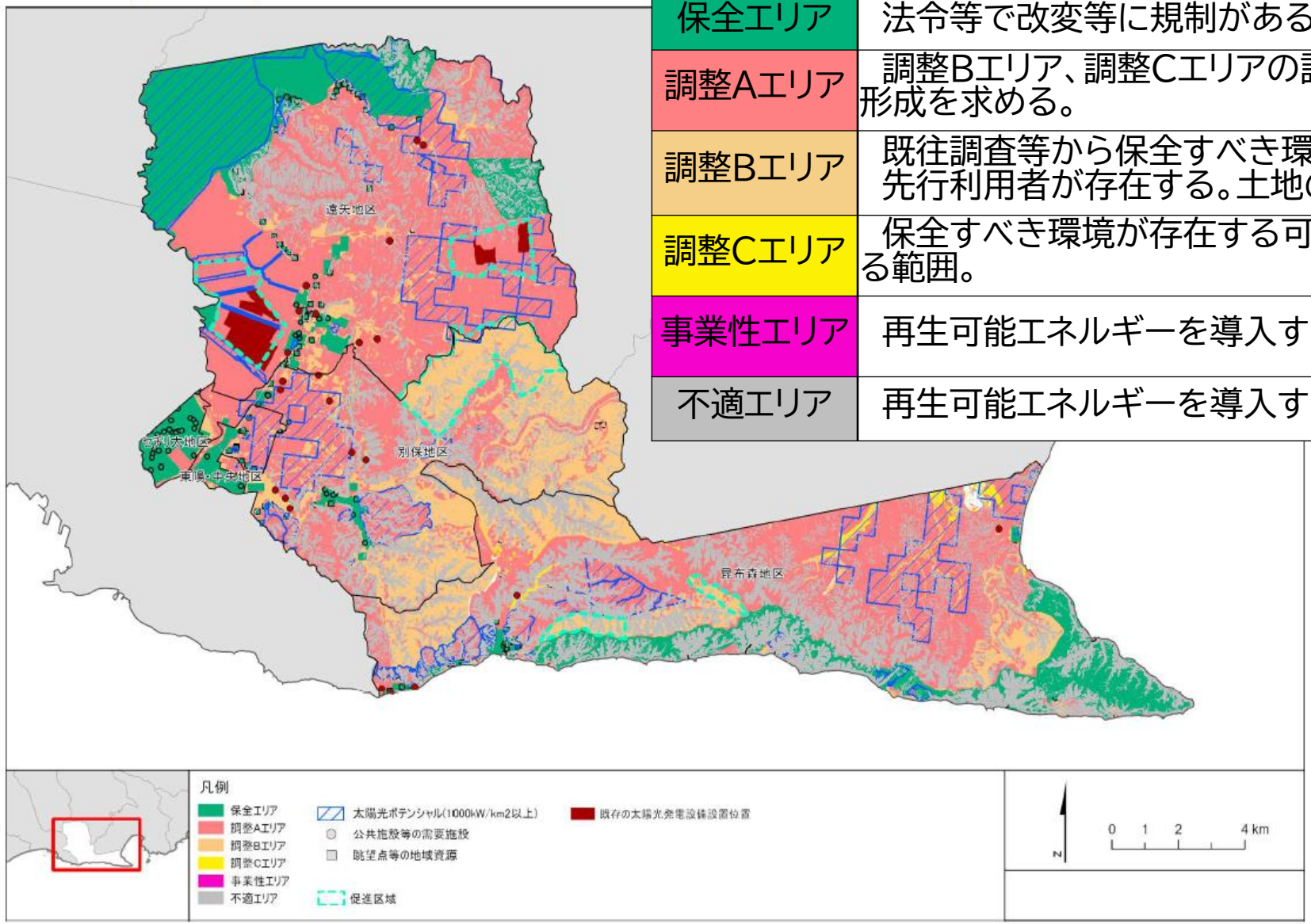


点在する太陽光発電所

釧路湿原国立公園やその周辺には、太陽光発電所が点在しており、景観の悪化や生態系への影響などが危惧されている。

【町の対応】ゾーニングマップの公表（令和6年4月～）

太陽光発電(売電型)



エリア区分	定義
保全エリア	法令等で改変等に規制がある範囲に指定されている。
調整Aエリア	調整Bエリア、調整Cエリアの調整・留意事項に加え、地域との合意形成を求める。
調整Bエリア	既往調査等から保全すべき環境の存在が確認されている。 先行利用者が存在する。土地の利用や改変等に手続きがある。
調整Cエリア	保全すべき環境が存在する可能性がある。法令等で指定されている範囲。
事業性エリア	再生可能エネルギーを導入する条件が良い。
不適エリア	再生可能エネルギーを導入する条件が悪い。

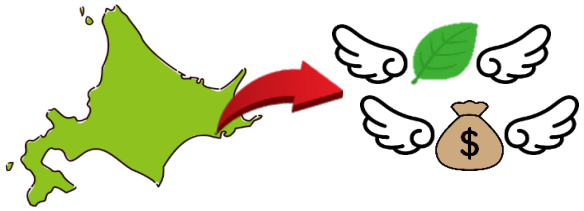
- 令和6年4月から公表
- これまでの問い合わせ件数
  →35社48件
- 配慮事項を伝え、専門家等に相談するよう依頼

なぜ不安なのか？

1 自分達には便益がないのに、
大切な自然が壊されている



2 メガソーラーにより生まれた資金は
地域外に流出している



もしも・・・

自分たちの暮らしが豊かになり、
大切な自然も守られていたら？

メガソーラーにより生まれた資金を
地域内で循環させることができたら？



釧路町ゼロカーボンシティ未来デザイン会議を発足！

未来デザイン会議のテーマ

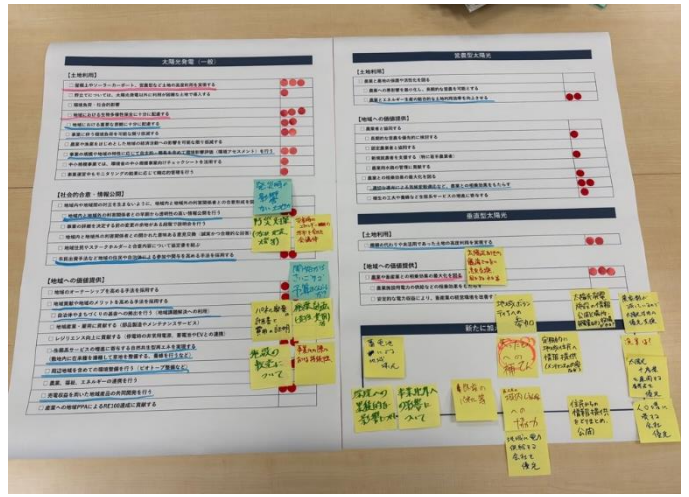
釧路湿原などの「自然環境」を守りながら「エネルギーの地産地消」を進め、
私たちの暮らしを豊かにするためには？

参加者　地域住民、大学教授、金融機関、エネルギー事業者、地域NPO、希少生物専門家など、多様な主体が参加（約２０名）

経　過　令和７年３月に第１回を開催し、これまで１０回開催。
本年１月には未来デザインシンポジウムも開催し、これまでの取組を広く住民に共有。（約１００名参加）







未来デザイン会議の歩み

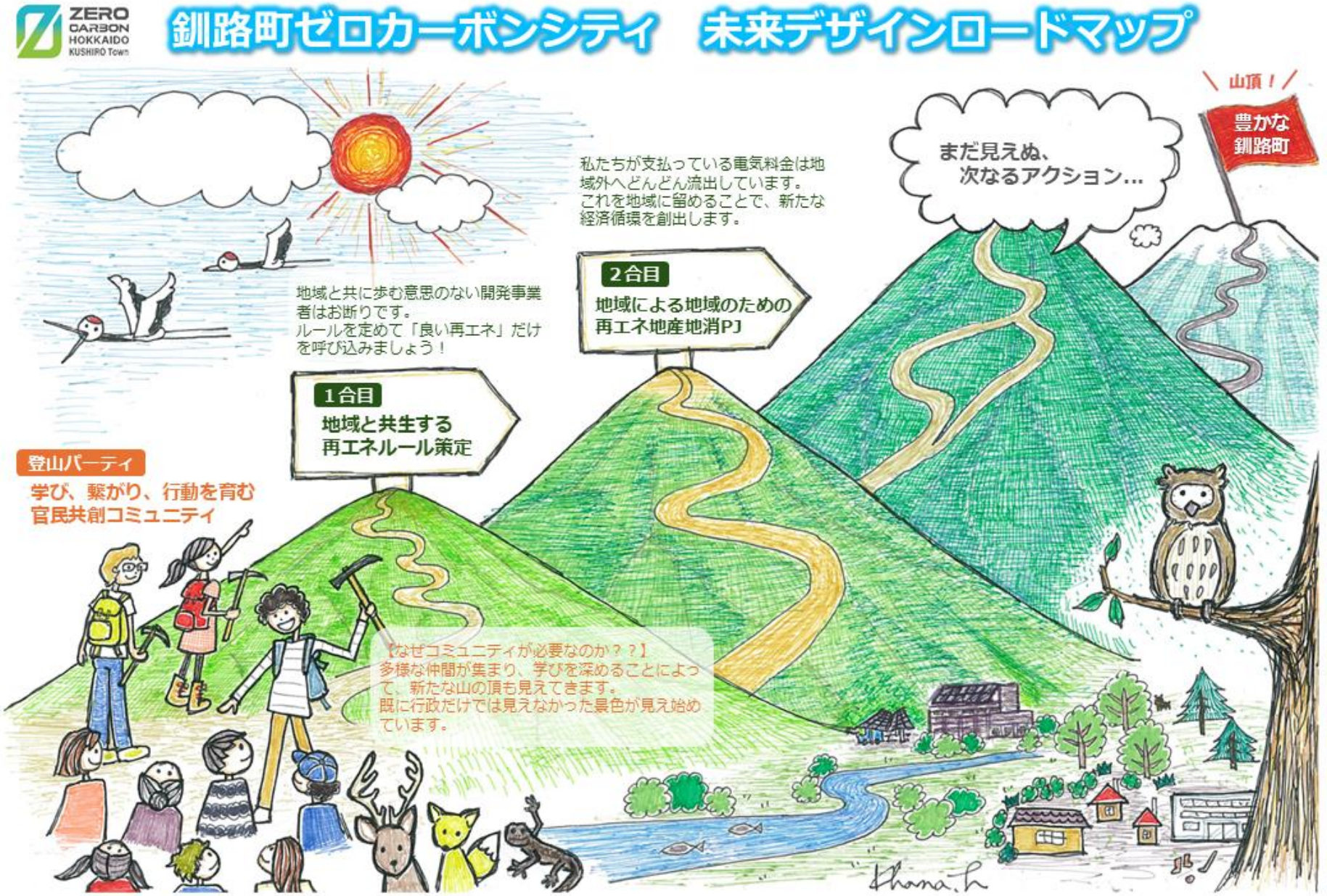
回	日程	主な内容
第１回	令和7年　3月18日（火）	・**釧路町における現状と課題の共有**
第２回	令和7年　5月28日（水）	・**ネイチャーポジティブと地域循環共生圏の構築** 環境省釧路自然環境事務所長　岡野　隆宏　氏
第３回	令和7年　6月26日（木）	・**「地域にとって望ましい再生可能エネルギー・チェックリスト 太陽光・陸上風力ver.1.0」解説** 特定非営利活動法人環境エネルギー政策研究所　主任研究員　山下　紀明　氏
第４回	令和7年　7月23日（水）	・**地域で再エネ事業に取り組む３つの理由** 一般社団法人ローカルグッド創成支援機構　事務局長　稲垣　憲治　氏 ・**たんたんエナジーの取組** たんたんエナジー株式会社　代表取締役　木原　浩貴　氏
第５回	令和7年　8月21日（木）	・**これまでの対話の振り返りと今後の進め方**
第６回	令和7年11月　7日（金）	・**２つのアクション（①再エネルール策定　②再エネ地産地消）検討進捗共有**
第７回	令和7年12月23日（火）	・**ＨＯＰＥの理念と取組事例** 一般社団法人東松島みらい都市機構　代表理事　引間　世枝美　氏 志賀　圭一郎　氏
	令和8年　1月28日（水）	**釧路町未来デザインシンポジウム** **～地域共創で実現する豊かな“まち”のカタチ～** 未来デザイン会議で重ねてきた対話や意見を、多くの方と共有する場として開催
第８回	令和8年　3月26日（木）	・**１年後の未来デザイン会議の姿を考える**

令和８年度に入ってからも既に３回実施し、計11回実施。

テーマに対して思うこと（第2回時点）

	ポジティブ	ネガティブ	学びたい
自然	・釧路湿原国立公園という日本一の湿原 10 ・森や海といった自然が豊か 8 ・ゾーニングマップを策定している 4 ・希少な動植物の存在 3 ・近隣自治体が同様の問題を抱えている 2	・自然環境とのバランスが悪い 5 （希少種がいなくなってしまう） ・自然環境を守る取組や条例がない 4 ・環境に配慮しない事業者も存在する 1 ・太陽光パネルは将来ゴミになるのでは 1	・自然を守るためのアクション 4 ・管内自治体との広域連携 3 ・税収入に繋げる条例 1
太陽光	・有効利用できそうな土地がある 8 ・太陽光発電のポテンシャルが高い 5 ・商業地があり電力需要が高そう 1	・既存の太陽光は域内循環されてない 14 ・地域外の事業者ばかり 9 ・太陽光は悪者という住民感情 3 ・太陽光以外のポテンシャルが低い 1	・釧路町で実現できる循環型社会とは 5 ・既存発電事業者から調達するスキーム 5 ・一般家庭に供給する手法 5 ・需要家となる施設や産業 4 ・営農型太陽光や防雪柵等の手法 3 ・太陽光パネルはこれ以上必要か 2 ・蓄電池事業の可能性 2 ・釧路町と似た都市（海外含む）の事例 2

釧路町未来デザイン会議で示された方向性



基本理念
（キーワード）

再エネを地域の豊かさに変換する

1 地域内でエネルギーと経済が循環するまち



再生可能エネルギーによる収益や
経済効果が地域内に還元され、
地域課題解決や住民サービス向上
につながっている状態

2 自然や暮らしと共生しながら成長するまち



豊かな自然環境を守りながら、
私たちの暮らしと調和した
再生可能エネルギー導入が進み、
地域との共生が実現している状態

3 新たな産業と雇用が生まれるまち



再生可能エネルギー関連産業や
ＧＸ産業の集積により、
新たな雇用や投資が生まれ、
若い世代に希望を持てる状態